

京都加茂・木津地域 幻の大仏鉄道遺跡巡り

日時：2016年9月8日(木)

集合：10時10分 JR加茂駅 (大和路快速加茂行きが10時3分着です)

持ち物：弁当、飲物、観察用具、雨具、残暑厳しいかもしれませんが暑さ対策にも留意

雨天判断：前日夕刻の京都南部予報降雨確立60%以上で中止(メール連絡します)

行程：JR加茂駅⇒動輪展示⇒ランプ小屋⇒C57SL展示⇒高田寺⇒**観音寺橋台**⇒**鹿背山橋台**⇒**梶ヶ谷隧道**⇒**赤橋**⇒城山台公園(大仏鉄道公園)で昼食⇒西念寺⇒安福寺・**平重衡の供養塔**／首洗い池／不成柿⇒JR木津駅にて解散(約7kmの行程)

(城山台公園からバス便(1時間に1本)木津駅行きがあります お好みでどうぞ)

(ドリンク付き反省会は木津駅南の「やましろ」でどうぞ)

○名古屋方面から奈良の大仏参拝のために、明治30年代のわずか9年間、加茂駅から大仏駅、次いで奈良駅まで走った「**大仏鉄道**」の遺跡(橋脚や隧道)を訪ねます

○加茂駅から奈良駅までは13kmほど。今回は前半のみとし、途中から木津駅へ向かいます。平家物語で有名な**平重衡の供養塔**見物など、鹿背山の麓をのんびりと歴史探索しましょう。大仏鉄道研究会会長のナンバさんにボランティアガイドをお願いしています(協力金：参加者一人あたり200円)

○**大仏鉄道**とは、現在の関西本線の前身為明治の5大私鉄の一つとうたわれた「**関西鉄道(かんせいてつどう)(株)**」が名古屋方面から大阪への進出を目指し、「加茂駅」から現在の奈良駅北1.1kmの所に仮設的に作った「大仏駅」間を結ぶ8.8kmと、翌年に開通した奈良駅までの通称です。「大仏駅」の開業は明治31年(1898)4月19日、「加茂駅～大仏駅」が開通し「赤いイギリス製の蒸気機関車が伊勢や名古屋方面からの大仏参拝客を乗せてにぎわった」と当時の新聞が報道しています。客車は「小さな部屋が十個ほどつながっているような感じで、一室に五人くらい。座席は板で隣の部屋には降りなければ移れない」加茂の人たちは汽車を「マッチ箱」と呼んでいたそうです。この脚光を浴びた花形路線も急坂の黒髪山トンネル(勾配が25%パーミナル)越えの難関では、イギリス製(ナスマス・ウィルソン社)の新鋭機関車においても走行は困難を極め、「汽車の速度は遅く、機関車が二両ついているときはまだいいが、一両だと途中でとまってしまう。黒髪山の丘陵が登れなかったときは、客が降りて押ししたり、法蓮村(奈良市)の人たちが押しに行った」と伝えられています。新たに木津駅経由の平坦路線が開通したため徐々に乗客が減少、1907年鉄道の国有化法により僅か9年間で廃止となりました。現在、線路跡は残っていませんが、橋脚や隧道などが元路線沿いに100年前そのままの姿で残っています。(木津川市観光ガイドより)

○木津駅北500mの安福寺境内には、平清盛の五男で1181年に東大寺・興福寺など奈良の仏教寺院を焼討にした(南都焼討)**平重衡の供養塔**と伝えられる十三重石塔がある。南都焼討では興福寺、東大寺の堂塔伽藍一字残さず焼き尽くされ、多数の僧侶達が焼死、平氏の悪行の最たるものと非難され、実行した重衡は南都の衆徒からひどく憎まれた。1184年に一ノ谷の戦いで平氏は源氏軍に大敗を喫し、このとき平重衡は馬を射られて捕らえられます。その後、平氏滅亡後、焼討を憎む南都衆徒の強い要求によって重衡は南都へ引き渡され、木津川河畔で斬首されました。妻の佐局(すけのつばね)は重衡の遺骸を引き取り、南都の衆徒から首ももらい受けて茶毘にふし、遺骨を高野山に葬って、日野(京都市伏見区)に墓を建てたと伝えられています。

9月担当(金高・坂根・日景・中曽根・長尾・浅野)

幻の「大仏鉄道」遺跡巡り記録

日 時 平成28年9月8日(木) 10:10 ~ 16:00

集合場所 JR加茂駅(関西本線) 10時10分

参加者 浅野、石原、大石、坂根、杉谷、中曾根、日景、藤井、前野、万井、李三、山下、倭
(14名)

ガイド 大仏鉄道研究会 難波さん

行程 JR加茂駅 → ランプ小屋 → C5756SL展示場 → 観音寺橋台 → 観音寺小橋台 →
鹿背山橋台 → 城山台公園 → 赤橋 → 梶ヶ谷隧道 → 鹿背山不動尊 → 西念寺
→ JR木津川駅

「大仏鉄道」は現在の関西本線の前身で、明治の五大私鉄の一つと言われた「関西鉄道(かんせいてつどう)(株)」が、「加茂駅」から現在の奈良駅北1.1kmに作った「大仏駅」間8.8kmと翌年に開通した奈良駅までの通称である。加茂、大仏駅間は明治31年4月に開業、市民・観光客に親しまれ賑わったが軌道勾配がきつく、速度が遅かった。木津川経由の平坦な路線が出来ると乗客は減り、わずか九年間で廃止された。現在は昔の線路沿いに橋桁や隧道が百年前の姿で残っている。

今回は加茂から赤橋までの半分の行程を経て、鹿背山不動尊と西念寺をお参りし木津川駅に抜けるおよそ7kmを歩いた。



ランプ小屋



ガイド役 難波さん



SL C5756

集合時間の加茂駅付近は、予報通り激しい雨がたたきつけ、雷もゴロゴロという状況だった。今日は雨女のKさんがいないのにどうした事だろう。案内をお願いした難波さんは「木津川沿いは雷の通り道で、中止する団体がほとんどだが、警報が出ていても実施する皆さんの熱心さには驚きました」と変に感心してくれた。コーヒーでも飲んで様子を見ようと駅舎を出たが、難波さんお薦めの駅前の喫茶店はお休み。仕方なくローソンに入った。三十分程で雨は小降りになり、雷も止んだので出発する。まず駅から徒歩二分にある、煉瓦造りのランプ小屋から見学。客車や機関車の照明用の灯油を保管した倉庫で、入り口のアーチが特徴的なオランダ造りである。小屋の反対側にある関西本線ホームの下層には大仏線の石積みのホームが埋もれていた。百年前のホームが現在のホームを支えているのだ。ランプ小屋から駅の向こう側へ回り、東口公園の8620型SLの動輪モニュメントを遠目に見て公園の外れまで行く。創業時の跨線橋を支えた八本の鉄製橋桁の一本がここに移設され、シャリンバイの生垣に半分埋もれて立っていた。灰色に塗られ街路灯のような竹まいである。刻まれた文字が歴史を感じさせた。踏切の手前の車道を横断し、小道に入って進むと、小学校の前に貴婦人と呼ばれるSL C5756が展示されていた。お召列車にもなった機関車だと言う。「中の部品はマニアに盗られて何も残っていない」難波さんは残念そうに言った。



観音寺橋台への道



観音寺橋台



観音寺小橋台

いつの間にか陽が照りはじめ、蒸し暑くなって来た。先程の大雨が嘘のようだ。やはり雨女の伝説は生きている。小学校の脇道を抜け車道に出た。ほどなく行くと踏切りがあり、渡ってすぐに川がある。一級河川の赤田川だ。それほど大きな川ではない。昔は大変な暴れ川で、よく田圃を押し流したそうだ。この川には大仏線の赤田川橋梁が掛かっていたが今は無い。ここからは田園風景が広がっている。心地よい緑の中を歩くこと10数分で小さな橋があり、そこを左折して川に沿って進む。奇妙なマスクの案山子が二つ、竹に吊られてゆれていた。土手道をそれて数分行くと、関西本線のガードの向こうに、観音寺橋台が見えて来た。御影石を四角に切りだし、綺麗に力強く積み上げられている。軌道の幅は広軌を基準に造られているてそうだ。橋台を過ぎて、突き当りを右折し線路沿いになだらかな坂道を上ると観音寺小橋台があった。丈の低い橋台で、隣を関西本線が走り危険なため、金網の柵で立ち入り禁止になっていた。



鹿背山橋台への道



鹿背山橋台への道



鹿背山橋台

ここからは竹林と雑木林を通る薄暗い小道だ。雨で足場が悪く、水浸しの所もあったが十五分程で鹿背山橋台に出た。この橋台は水路に掛けられた橋台である。水気のせいか黒い黴がこびり付き黒光りしている。普通の御影石なのだが黒御影と間違える人もいるそうだ。橋台を後にし、目の前に現れたゴルフ場を左にして林の間を進んで行くと、二十分程でUR(都市再生機構)が開発している団地の城山台公園に出た。公園の前は京大の実験農場だ。学生だろうか、草刈り機のエンジン音をうならせて、広い農場のぼうぼうの草を刈っていた。もう一時を過ぎている。この公園で一時間遅れの昼食を取り、午後の行程は公園の間近にある赤橋から始める事になった。



赤橋



梶ヶ谷隧道



道端のフヨウの花

赤橋の橋台は御影石と煉瓦を組み合わせて造られ、これまでに見た三つの橋台とは趣が違っていった。御影石で角を積み上げ、壁面は長短の煉瓦を交互に組むイギリス式で、現在も車道として使われている。梶ヶ谷隧道は赤橋から加茂方面に向かってほんの2,3分の距離にある。農道を通すため軌道の築堤に掘ったトンネルだ。側壁は御影石、アーチ部分は煉瓦積みとなっていて、現在でも古さを感じさせないデザインである。隧道を抜けると芝生の農道に繋がり、左折すると赤橋を渡る車道に出た。車道を右折して鹿背山不動尊に向かう。村に入ると柿畑があちこちにある。たわわになる実はまだ青い。ここ鹿背山は富有柿の産地なのだ。人家の前を抜け階段を上ると社があった。社は崖に穿たれた洞穴を囲むように建てられ、洞穴の壁には不動明王が掘られている。六百六十年余り前の磨崖仏で、覗くと薄暗がりの中に小さな姿がぼんやりと浮かんでいた。今も多くの参拝客が訪れるという。他に「しょんべたれ地藏」や「春日のおばはん」が裏山にあると案内にあった。不動尊を出て坂道を十分程上ると西念寺に着いた。大きな寺ではないが伽藍は新薬師寺風で趣がある。遅れたせいで住職は留守だった。待つこと二十分。やっと現れた住職は、その昔の創建の話から始まり色々話されたがほとんど忘れた。何でも行基の創建で、何度か火事でやけ、現在の西念寺になったのは三百十年ほど前。浄土宗でご本尊は阿弥陀如来である。住職は「大したことは無いですよ」と言っていたが京都市の指定文化財であるらしい。拝観できなかつたのは惜しい気がした。鹿背山には三輪山と同じ「みもろつく」と言う枕詞が付くのだそうだ。神が住むという修行の場である。初めて知った。この寺の前に鹿背山城への登り口があったが、登る者はいなかった。木津川駅へはここからバス通りに出て二十分程との事。バス停で時間を確認すると次のバスは三十分後。歩く方が早い。農村が町に変わる様子が見て取れる道を歩いて、予定通り木津川駅に着いた。十六時頃駅前に全員が集合して解散。お疲れ様でした。(写真 坂根、記録 中曾根)



西念寺



全行程:約13km 所要時間:約3~4時間(徒歩)

JR奈良駅

↓1.2km
20分 ↑

12 佐保川橋脚跡
佐保川に架かる下長慶橋付近の川底に残る、レンガ製橋脚の基底部です。

↓20m
1分 ↑

11 大仏鉄道記念公園
大仏駅の跡地に、奈良市と地元自治会の協力で、平成4年に造られた公園です。

↓1.6km
25分 ↑

10 黒髪山トンネル跡
昭和41年頃まで残っていた、大仏鉄道唯一のトンネル。道路拡張で取り壊されて現在の姿に。

↓1km
15分 ↑

9 鹿川隧道
農業用水路の目的で造られた石積みの隧道。現在も利用されています。

↓1.6km
20分 ↑

8 松谷川隧道
レンガ造りの隧道。色の違うレンガが交互に配置されています。

↓1.2km
20分 ↑

7 井関川橋梁跡
構造物の詳細は不明。南北に走る道に、当時の軌道の雰囲気が残っています。

JR加茂駅

↓0.1km
2分 ↑

1 ランプ小屋
赤レンガ造り、切り妻屋根のランプ小屋。加茂駅の開業時に建てられました。

↓0.4km
5分 ↑

2 C57SL展示
「貴婦人」の名で親しまれた昭和12年製の機関車。関西本線を走っていました。

↓2.2km
35分 ↑

3 観音寺橋台
石積みの橋台(手前)。現在利用されている関西本線の橋台と並び位置しています。

↓1.1km
15分 ↑

4 鹿背山橋台
石積みの橋台。堅固な構えに魅了される人も多く、遺構の中でも人気のスポットです。

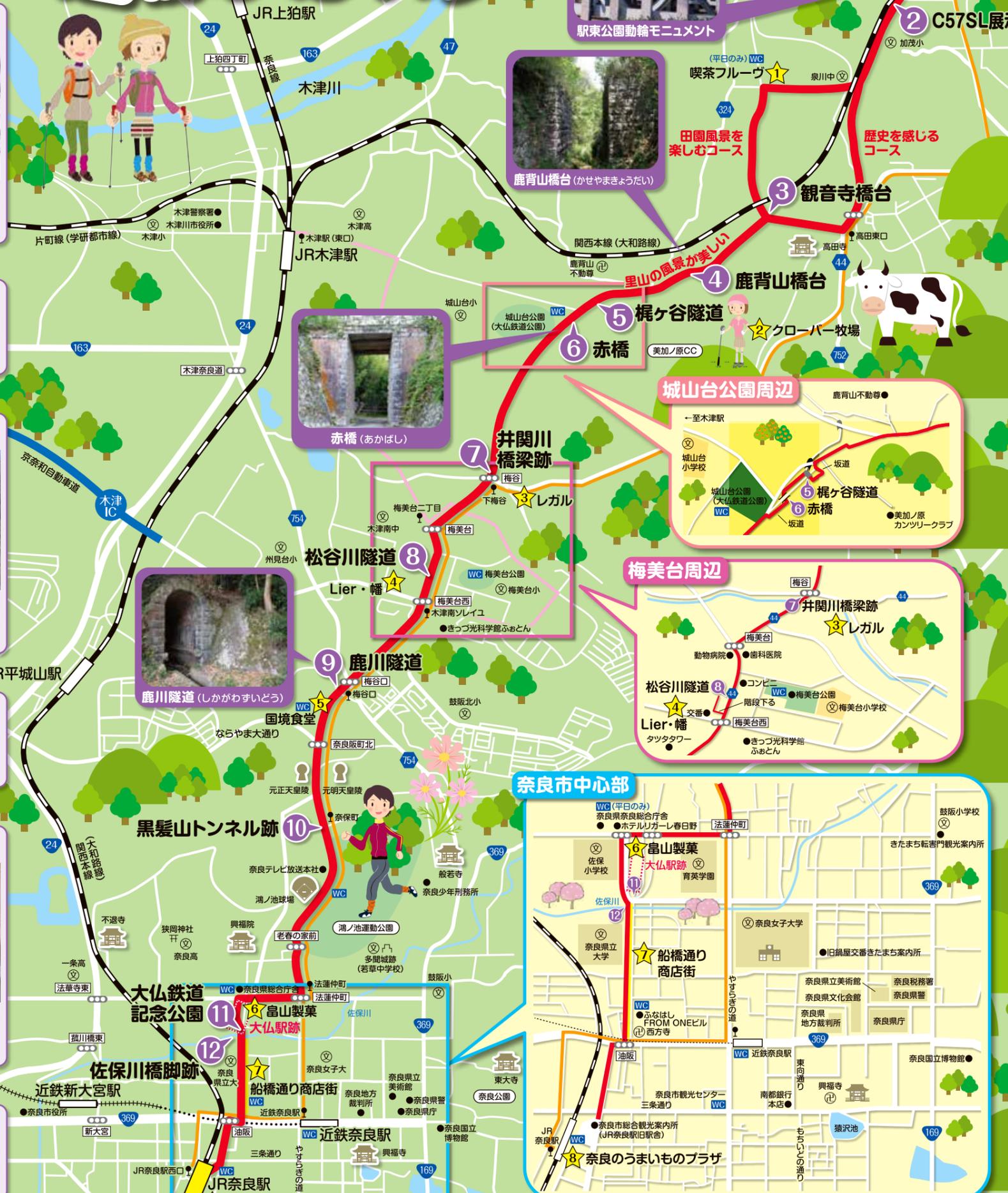
↓1.1km
15分 ↑

5 梶ヶ谷隧道
アーチ部分はレンガ造り、下部は石積みの隧道です。内部を歩くことができます。

↓0.3km
5分 ↑

6 赤橋
レンガ造りの橋台。生活道路として使用されており、現役で活躍しています。

遺構めぐりマップ



沿線 花だより

大仏鉄道遺構めぐりのルート沿いには、四季折々の花が咲きます。季節ごとの風景をお楽しみください。

春	<p>シダレザクラ 見ごろ 4月上旬 春、大仏鉄道記念公園はシダレザクラで覆われます。すぐ近くを流れる佐保川沿いは桜並木になっており、名所として知られています。</p>
夏	<p>セイヨウカラシナ 見ごろ 3月~4月 春には、泉川中学校付近を流れる赤田川の土手などで、黄色い花を咲かせます。アブラナによく似ていますが、花のつき方や大きさ、葉の形などに違いがあります。</p>
秋	<p>ミツバツツジ 見ごろ 4月~5月 花が咲き終わると、枝先に3枚の葉がつくことから、この名がつけられました。鹿背山橋台付近や梶ヶ谷隧道付近などで見られます。秋になると葉が美しく色づきます。</p>
冬	<p>ノアザミ 見ごろ 5月~8月 田畑の畦などに咲く紫色の花。葉にはトゲがあり、刺草(しそう)とも呼ばれます。ノアザミは他のアザミと異なり、春から夏に掛けて咲きます。</p>
春	<p>ゲンショウコ 見ごろ 7月~10月 日当たりのよい道端などに咲きます。古くから薬草として用いられ、その効き目から「現の証」の名がつけました。</p>
夏	<p>ヒガンバナ 見ごろ 9月中旬~10月 田の畦などに咲くヒガンバナは、花が枯れた後に葉が出ます。このことから、「葉見ず花見す」とも呼ばれています。</p>
秋	<p>コスモス 見ごろ 10月~11月 今では畑地などで見かけるコスモスですが、日本には明治時代に入ってきました。別名をオオハルシャギクといいます。</p>
冬	<p>柿 見ごろ 10月~11月 鹿背山地区は大正時代から続く富有柿の産地です。周辺には柿畑が点在し、秋には出荷作業でにぎわいます。</p>
春	<p>ヤブツバキ 見ごろ 2月~3月 観音寺橋台付近などで見られ、日本書紀や万葉集にも登場するなど、古くから親しまれてきました。寒空の廃線跡に、可憐な赤い花が温かみを添えます。</p>
冬	<p>梅 見ごろ 2月~3月 梅美台公園には、白梅・紅梅・蠟梅が植えられています。春告草(はるつけくさ)や風待草(かぜまちくさ)とも呼ばれ、春風の冷たさを和らげてくれます。</p>



大仏鉄道研究会おすすめスポット

★1 喫茶 フルーヴ (いづみ福祉会)



ひとつずつ手作業で作られる「茶処ラスク」は、2013年スイーツ甲子園 京都予選会でグランプリに輝いた名菓です。
☎0774-76-7210
定休日 土曜日・日曜日・祝日

★2 クローバー牧場



「自然を愛する」から生まれた特別牛乳が人気です。自然の風味を生かしたクリーミーな味わいで、あと味さっぱり。
☎0774-76-7717

★3 レガル (regal+6)



大仏鉄道研究会がイチ押しするパン屋。なかでもおすすめのパンは、バターが香るバターロールです。
☎0774-73-1788
定休日 第1・3・5日曜日、毎週火曜日

★4 Lier・幡



季節に合わせた衣・食・住にまつわるアイテムを多数展開。松谷川隧道を眺められる併設のカフェには、自家製デザートが多数揃っています。
☎0774-71-0121
定休日 水曜日

★5 国境食堂



鹿川隧道の少し南の場所にあり、非常に大きなカツ丼が有名です。トイレは駐車場の奥にあります。
☎0742-22-8725
定休日 無し

★6 島山製菓



一枚一枚手焼きのせんべいのお店で、「大仏鉄道せんべい」などが人気です。
☎0742-22-6531
定休日 第1・3日曜日

★7 船橋通り商店街



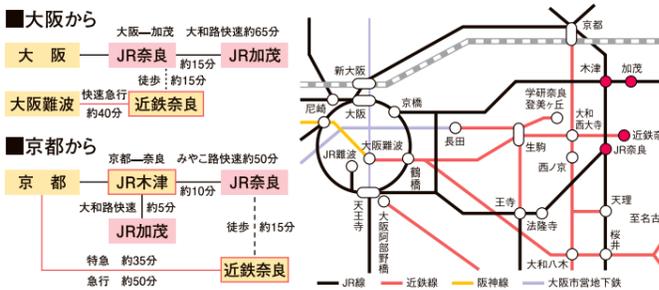
近鉄油阪駅があった昭和期は大変栄えた歴史ある商店街です。今も、通りにはお店が並び、そのおもかげを残しています。

★8 奈良のうまいものプラザ



奈良県の農・林・食のアンテナショップで、県産の農産物、特産品等の販売と地元素材を使ったお食事が楽しめます。
☎0742-26-0088
定休日 無し

加茂・奈良へのアクセス JR・近鉄利用



■問い合わせ
奈良市観光振興課 ☎0742-34-5135
木津川市観光商工課 ☎0774-75-1216

QR Translator
Scan to get the info your own language.

大仏の 大仏鉄道

遺構めぐりマップ

わずか9年の「幻」

今から100年以上前「大仏鉄道」が走っていました。大仏鉄道とは、当時の鉄道会社「関西(かんせい)鉄道」の加茂と奈良を結ぶ、わずか9.9kmの路線の愛称です。

明治31年4月の開業後、終着駅の「大仏駅」は東大寺大仏殿の最寄り駅として、大いに賑わいました。

翌年5月、同社は大仏駅から奈良駅へ路線を延長。奈良駅への乗り入れを果たすと、観光の拠点は、大仏駅から奈良駅へと次第に移っていきました。

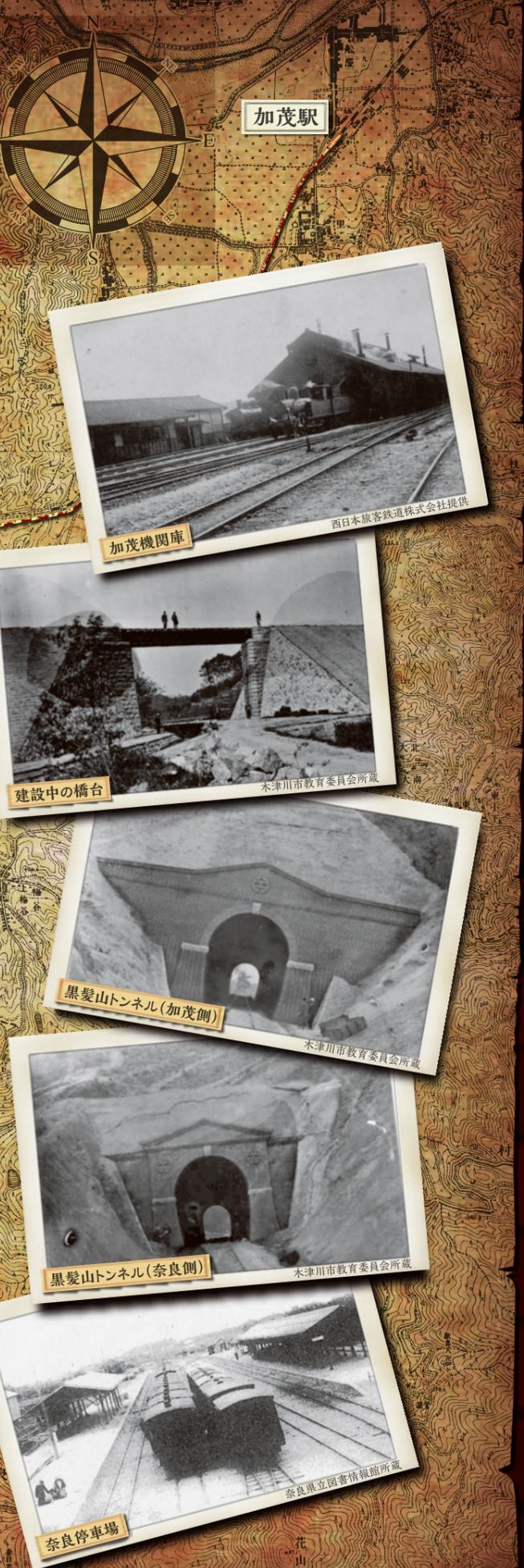
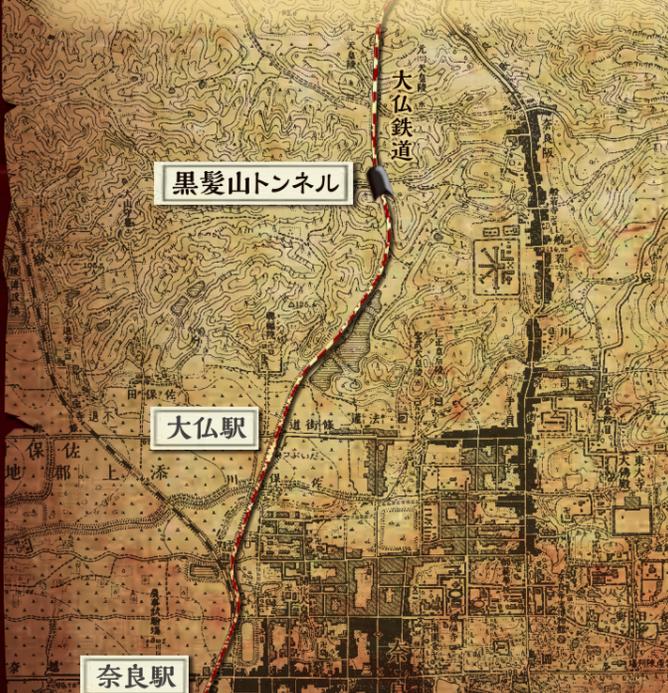
そして明治40年8月、加茂駅から木津駅を経て奈良駅へと至る平坦なルートが開通すると、急坂の難所を抱える大仏鉄道は休止となり、同年11月に廃線。わずか9年の歴史に幕を下ろしました。

大仏鉄道は、営業期間が短く、当時の資料も乏しいことから「幻の大仏鉄道」と呼ばれています。路線の跡には隧道(ずいどう=川の水や人を通すためのトンネル)や橋台(橋の上部構造の両端を支える基礎)などの遺構が所々に残され、1世紀前の姿を今に伝えています。

表紙の絵のような色鮮やかな深紅の蒸気機関車「電光(いなづま)号」などが駆け抜けたという幻の鉄道。当時を思いながら廃線跡をたどれば、周囲の景色も一層美しく見えるかもしれません。



イラスト・堀田憲司



明治41年測量同45年製版発行 2万分の1 正式地形図 京都府立総合資料館所蔵
発行者 大日本帝国陸地測量部(現 国土地理院) 国土地理院承認書号 平26近複第38号